

令和6年度 白川郷学園 図画工作・美術科研究構想

研究主題

学びのひとりだちを目指す授業の創造

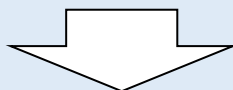
図画工作・美術科で願う子どもの姿

造形的な見方・考え方を働かせながら、つくったり、表したりして、創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる姿

児童・生徒の実態

- 主体的に学習に取り組むことができる。
- つくる過程で試行錯誤を繰り返し、造形的な視点について自分なりの考えをもつことができる。
- どのように表したいのか自分の考えをもつことができる。

▲自分の考えをもったり、仲間の意見を共有したりする一方で、イメージをもって造形的に表そうとすることに弱さがある。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・題材で活用する知識及び技能等、既習内容を想起する場の設定
- ・作品の魅力を感じるための、新たな視点を生み出す資料提示の工夫

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・仲間の表現を取り入れたり、新しい見方や感じ方を創り出したりする場の設定

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・表現意図を明確に自覚するための、表現方法の言語化と交流する場の設定
- ・表現意図に立ち返りながらつくる過程を振り返るポートフォリオの活用と変容の価値付け

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実